

新聞を活用した情報読解力の育成Ⅱ

—中高等部によるNIEの実践—

橋本祥夫・河合晋司・西田直記・植田智史・宮代大輔

(京都教育大学附属京都小中学校)

Promotion of information comprehension power that uses newspaper Ⅱ

— Practice of NIE by middle part and advanced level part —

Yoshio HASHIMOTO, Shinji KAWAI, Naoki NISHIDA, Satoshi UEDA, Daisuke MIYASHIRO

2012年11月30日受理

抄録：附属京都小中学校は、平成23年度から2年間、日本新聞協会からNIE実践指定校に認定された。本稿は、その2年間の取り組みをまとめたものである。本校は小中一貫学校として、初等部、中等部、高等部の4・3・2制を取り入れている。NIEの実践は、5年生から9年生までの中等部と高等部で行っている。NIEの実践校の取り組みとして、小学校、中学校の実践はそれぞれにあるが、小学生から中学生までの一貫した取り組みは数少ない。昨年度の取り組みをふまえ、小中一貫学校としての特性を生かして、発達段階に応じたNIEの実践はどのように行っていくべきかについて考察する。

キーワード：NIE、情報読解力、新聞活用、新聞づくり、新聞スクラップ、社会科教育、総合的な学習

Ⅰ. NIEと「情報読解力」の育成

「情報読解力」として育成する能力として、以下の5つの能力がある。

- ①問題発見力…社会的事象や問題に対して、具体的な活動や体験を通して働きかけることによって「社会を知る」「社会がわかる」ための問題を発見することができる力
- ②情報受信力…「社会を知る」ための問題「どのように」「どのような」を解決していくことができる力
- ③探究力…「社会がわかる」ための問題「なぜ」「どうして」を解決していくことができる力
- ④意思決定力…「社会に生きる」ための問題「どうしたらよいか」「どの解決策がより望ましいか」を解決していくことができる力
- ⑤情報発信力…解決した情報を発信していくことができる力

これらの力の育成は、学習の中に組み込むだけではなく、新聞スクラップや新聞スピーチのような常時活動の中でも身につけることができる。新聞を継続的に読んでいくことが求められるNIEでは、むしろこのような教科外の常時活動での実践の方が効果的である。そこで本校では、5学年共通で行う実践として、新聞スクラップを行った。その上で、各学年の学習内容、発達段階を考慮し、学習時間でもNIEを取り入れていった。

Ⅱ. 発達段階に応じたNIEの取り組み

1, 2年生は、まだ自分で新聞を読むことができないので、「新聞に親しむ」段階である。

新聞スクラップでは、主に写真をもとに、気になる記事を探す。記事を自分で読むことができないので、記事の内容は教師がわかりやすく説明してあげることが必要である。この時期は、親子で一緒に記事を読むファミリーフォーカスも重要である。ファミリーフォーカスによって、新聞が身近なものとなり、新聞を読むきっかけを作ることになる。また新聞をもとに親子で機会を作ることによって、家庭によりよい言語環境を作ることにもな

図1 各学年の発達段階に応じたNIE実践

学 年	N I E の目的	情報読解力との関わり	N I E の実践例		
一年生	新聞に親しむ	情報読解力育成の基盤づくり ↓ 情報読解力の育成 ↓ ↓ ↓	各教科で	新聞スク	新聞づくり
二年生	↓		の新聞活	ラップ	
三年生	新聞から学ぶ		用	↓	
四年生	↓		↓	↓	
五年生	新聞から考える		↓	↓	
六年生	↓		↓	↓	
七年生	↓		↓	↓	
八年生	新聞を読み解く		↓	↓	
九年生	↓		↓	↓	

る。各教科での新聞活用は、国語で習った漢字を探したり、生活科で新聞から季節感のある記事を探したりする活動などがある。

3, 4年生になると、少しずつ新聞が読めるようになってくる。この段階は、新聞の役割や特性を学ぶ「新聞から学ぶ」段階である。

新聞スクラップでは、自分の関心がある記事を選んでスクラップをすることができる。各教科での新聞活用は、国語の学習で、新聞づくりの学習があるので、この時期から新聞づくりの活動を行う。新聞づくりは、各教科や総合的な学習のまとめにも活用できる。また、国語の学習の中に、インタビューや取材の方法、メモのとり方などの学習があり、社会科でも新聞記事から社会事情の問題に気づかせる学習があることから、新聞の役割や特性を学ぶことができる。

1年生から4年生の初等部の段階は、新聞を十分に読むことができないため、情報読解力の基盤づくりといえる。

5年生からは、自分が関心がある記事だけでなく、様々な記事を読んで、自分なりの考えをもつことができるようになるので、5年生から7年生の中等部は「新聞から考える」段階である。

5, 6年生では、国語の学習で、新聞の編集の仕方や記事の書き方を学ぶ学習がある。そこでは、新聞記事や投稿の読み比べ、記事やコラムの書き方などを学ぶ。このように新聞とはどういうメディアなのかをしっかりと学ぶことで、新聞を正確に読みとることができる。また、社会科の学習では、5年生の産業学習で、新聞から日本の産業の様々な問題や課題を考えることができる。6年生の公民学習でも、日本の政治や社会問題について新聞から考える学習ができる。メディアリテラシーについての学習は、社会科で5年生、国語で6年生の学習にある。このように、5年生から新聞記事を読んで、社会の様々な問題について考えることができることから、5年生以上を情報読解力を育成する段階と位置づけた。

新聞は中学生が読める漢字、語彙を基準に作られている。したがって、中学生では、新聞を社説やコラムなどの読み取りもさせていき、新聞から必要な情報を読み解くことができるようにしていきたい。

7年生では、国語の学習で、新聞の紙面構成をもとに、必要な部分を探して情報を読みとる学習がある。5年生から7年生までの段階で、新聞から必要な情報を取り出し、それについて考え評価し、自分なりの考えや判断をすることができる力をつけたい。これはPISA型読解力でもある。

8年生からは、情報読解力の最終段階として、新聞から社会的事象や問題を知るだけでなく、背景を熟考し、自分なりの意見や考えをもち、それを表現しながら社会への参加・参画を考える力をつけていきたい。そこで8, 9年生の高等部は、「新聞を読み解く」段階とした。

8年生では、国語の学習で、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校

図書館などから得た情報を比較することにより、それぞれの情報手段の特徴及びそこから得られた情報の特徴について考えさせる学習がある。これは、メディアリテラシーの学習であり、情報の背景をクリティカルに読みとることを求めている。また、社会科の地理的分野の学習では、新聞記事から日本や世界の様々な現代的な問題や課題について調べ考えることができる。これらの課題には、様々な要因や背景があり、解説記事やコラム、社説などを手がかりに、多様な考えを知り、自分なりの考えを確立していくことができる。歴史的分野の学習では、近現代史の学習で、新聞が果たしてきた歴史的意義を学ぶことができる。こうした学習を通して、メディアとしての新聞の役割を認識し、そこから伝えられる情報をクリティカルに読み取れるようにしたい。

9年生では、国語の学習で、論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む学習がある。ここでは、書き手が論説の対象として取り上げた物事について、どのような立場からどのような論を展開しているかを読み取ることが大切である。事実と意見を分け、書き手の意図を読み取ることがここでは学ぶ。また、社会科の公民的分野の学習では、時事問題、社会問題を新聞記事から探し、それについての価値判断、意思決定を行う学習をする。このような学習を通して、高等部では、新聞を読み解く力をつけていきたい。

以上のように、1年生から9年生まで、発達段階に応じて、新聞スクラップを共通して行い、学習内容に合わせて新聞を活用していく。3年生からは新聞づくりを通じた学習を行っていく。初等部では、「新聞に親しむ」「新聞から考える」学習を通して、情報読解力育成の基盤づくりを行い、中等部で「新聞から考える」、高等部で「新聞を読み解く」学習を通して、情報読解力の育成を図っていきたい。

Ⅲ. 前年度の取組の概要

5年生では、定期的に教師から新聞記事を紹介することを始めた。大きな記事から、興味深い広告や、月の満ち欠け情報などの小さな記事まで、様々な角度から何度か紹介した。目を通してだけでは気づかない、たくさんさんの情報から新聞はできていて、そこから広がる世界の面白さに気づかせるようにした。

取り組みとしては週1回の宿題として、「NIE ノート」新聞スクラップを始めた。当初は、「何を選べばいいのかかわからない」という声が多く挙がった。選んでくるものも、一番目に付く大きく取り上げられていた記事が多かった。またそこに寄せる自分の思いも、「悲しいと思った」や「すごいと思った。」など、簡単な感想で終わっていた。しかし、こちらが新聞を紹介し始めてから、地域の記事や、小さな記事にまで目を向けるようになり、そこに自分の生活や興味関心に沿った思いを添えることができるようになった。

新聞を読む取り組みの外に、新聞を作る活動も同時に行った。社会科では「米作り」の単元のまとめとして「米作り新聞」の作成を行った。これまで見てきた新聞を参考に、見出しや社説にこだわって、自分で資料を取捨選択し各々の視点で新聞を完成させた。さらに、イラストや図・表を加えることでより読み手を意識した、新聞を作成することができた。

この活動により、新聞は「読み手」を意識して作られていること。また、数ある情報の中から取捨選択されて出来上がっていることを体感することができた。

6年生では、日々の週末にする自主学習で新聞スクラップを継続的に続けている生徒も多く、定期的に宿題にも出した。そのため日々のニュースに深い関心を持ち、見出しなどを工夫しまとめることができている。また、昨年の継続的な取り組みにより、社会のニュースに対する関心が深い。

社会科学習は多くが歴史学習の占める割合が多い。そこで単元ごとに学習した人物の功績を新聞形式でまとめる学習を行ってきた。

7年生の新聞スクラップでは、毎月5つまで新聞記事を選び出し、それに対する気付きなどを書かせた。その中で、内容をいくつかの到達段階に分けて評価をした。①単純な感想におわってしまっている。②（記事で述べられている）課題について理解し、まとめようとしていることができている。③課題を読み取り自分の意見を持つことができる。④課題を自分の生活に結び付け、自らの生活を見直そうとすることができている。⑤記事を批判的にとらえ多面的な視点から解決策を見つけ出すことができている。このうち、7年生では①・②の段階から、③ないし④の段階へ移行することを到達目標に考えて取り組みを進めた。

10月分の到達割合としては、それぞれおよそ25%、30%、15%、25%、数%程度という状況であり、主体的に社会に参画していこうという段階への移行途上ではあるが、①②の段階の生徒にも着実な進歩もみられている。

8年生では、社会科の地理的分野の学習で、週に一回の新聞スクラップを課題にしている。毎週テーマを与えて、そのテーマに沿う記事を探し、新聞スクラップをする。新聞記事は学習の意図によっては指定することもある。

また、社会科の地理的分野、歴史的分野で学習したことのまとめとして、新聞づくりを行った。新聞にまとめることで、学習したことを整理し、再構成することができ、理解が深まる。また、わかりやすく伝えるために、写真やグラフなどを使い、資料活用能力や表現力が育成できる。

9年生では、社会科公民分野の学習の一環として新聞を活用し、現代社会の諸問題を見つけ考えさせていく。世論調査の結果や社説、コラムなどから、内閣や政治にどのような期待がかけられているのかを知り、自分たちはどのような政治を求めるのかを考えさせた。

IV. 各学年のNIE実践の概要

1. 5年生のNIE実践

(1) 新聞スクラップ

週末に自分の気になる記事を選んでスクラップノートに書いてまとめる自主学習の形で取り組んでいる。また夏休みなどの長期休みでは課題としてテーマを設定して新聞をスクラップノートにまとめている。新聞の切り抜きは、①まずは記事を選び、②それをノートに張り付け、③大事だと思う場所、ポイントだと思った場所にアンダーラインを引き、④その要約を書き、⑤要約、感想を書くというものである。また、社会科の授業中に教師の方で、記事をコピーして渡し、その記事を上記の方法でまとめる練習もしている。この際には、他の生徒とアンダーラインを引いているところやまとめ方を比較することで、正しい読み取りができているかも確認している。また、要約はうまい人の文章を紹介しながら、お手本を示している。また、各クラスの学級通信や学園の掲示物としてでは優れたNIEノートは掲示するようにしている。これらの取り組みを通して、日々のニュースに敏感になり、社会に目を向けるようになりつつある。

(2) 社会科授業での実践 単元名「自動車をつくる工業」

「自動車をつくる工業」の2時間目に、自動車に関する新聞やインターネットニュースの見出しを用いて自動車に関するさまざまなテーマ（問題）の広がりについて学習するために新聞を使った授業実践を行なった。また、単元のまとめにも自分の追求したいテーマについて自動車新聞を作成した。

まず、黒板に自動車の新聞やコラムの見出しを掲示する。それをみながら知っているニュースはないか、どのようなことを述べていると思うかについて出し合う。ここで見出しと自分の知識を結び付け、自動車に関するニュースをより実感することをねらいとしている。見出しはその記事の内容の要約でもあり、読者の目を引くようなコピーになっており、子どもの興味関心を引き出しやすい。また子どもたちも少ない情報から自分たちの知識と結びつけて考えることでその内容を予想することができる。さらに本時の終わりに子どもに記事を1つ選ばせ、その記事を1人1枚配布した。その記事のテーマをさらに詳しく調べ、「自動車新聞」を単元のまとめにつくった。

取り上げたニュースには、以下のようなものがある。

①「補助金切れ 新車失速」②「インドネシアに低価格車」③『「若者のクルマ離れ」歯止めに期待感—カーシェアリング』④「ホンダが電気自動車のリース販売開始、2年で200台目指す」⑤「日産が新型ロンドンタクシー車両を公開、」⑥「日立、プラグインHV車用リチウムイオン電池を開発」⑦「トヨタ、洪水で停止中のタイ工場を11月21日から一部再開」⑧「犠牲者の笑顔プリントしたTシャツ胸に…危険運転適用求め遺族ら署名」

①の記事からは『国の政策としてエコカー補助金を実施され、それが景気に影響するということ』、②から

は、『インドネシアの人のニーズに応じた車を開発した人の思いや海外でも自動車の生産をしていること』, ③からは、『企業の営業努力だけでなく、環境や渋滞という社会問題の解決にもつながるカーシェアリングという制度』, ④と⑤からは、『未来の車として環境にやさしい電気自動車』, ⑦からは、『日本で作られている自動車がどこでどのようにつくられているのかということ』, ⑧からは『交通事故という自動車の抱える社会問題』というように自動車と私たちの生活や社会との関連についてさまざまな側面から考えることができる教材である。

この学習をすることで、工場での自動車生産の様子や未来の自動車づくりや環境問題とのかかわりなど、単元を通して自動車について学習する際の関心意欲が高まったように思う。それは、社会の実際の問題として新聞の見出しに上がっていたことや自分が追及して調べたことを、授業を通して学び直すことができたからであろう。このことから、多少難しくとも新聞を授業に持ち込むことは非常に効果的であるということが言える。

2. 6年生のNIE実践

(1) 新聞スクラップ

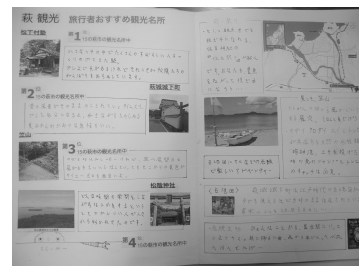
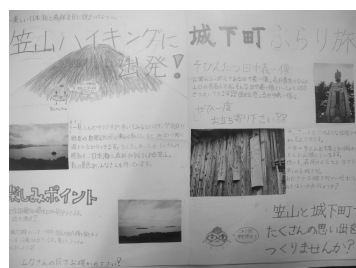
夏休みの課題で、新聞スクラップに取り組みさせた。夏休みの課題とすることで、日々の活動とは違い、長期間で自ら選んだテーマの記事を探ることができる。また、ただ単に新聞記事を切って貼るのではなく、その記事に対する感想や意見を書かせること、レイアウトを工夫すること、を大切な視点として抑えた。今年の夏は「ロンドンオリンピック」が開催されたこともあり、多くの生徒がオリンピックに関する記事を集めてきた。興味深かったのが、同じテーマであっても生徒達の興味関心により選ぶ記事や、生徒自身の意見のありようが違ったことである。

そこで、夏休み明けの少しの時間を利用して、同じテーマ（女子サッカーの記事）についてスクラップした生徒の作品を全体で読み比べる活動を行った。まずは、読み比べて気付くことを問うた。同じ日の同じ試合について書かれている記事なのに、写真が違ったり書かれている視点が違ったりすることに気付くことができた。これは昨年度、国語科の学習で行った「新聞を読もう」という単元で身につけた視点である。また、同じ記事であっても、読み手の意見が違うことにも話合いの視点が広がった。読み手の意識や興味関心によって同じ事象でも受け取り方が違うのだと、新たに読み手の視点に立った読み方を知ることができた。

(2) 修学旅行のパンフレットを作ろう

7月に山口県の萩へ修学旅行に行った。歴史的遺産や京都にはない萩の自然を堪能して京都に帰ってきた。そこで学んだこと感じたことをパンフレットにして、まだ萩へ行ったことがない人へ紹介しよう、と活動をすすめていった。修学旅行中には一人一つインスタントカメラを持たせ、まるで新聞記者のように心に残った場所や場面をおさめていった。

NIEの活動で学んだ、「書き手の工夫」と「読み手の視点」を確認しパンフレットを作り上げることを目標にした。6人～5人で構成される生活班で一つのパンフレットを作っていった。一人一ページを担当し、それぞれにテーマをしばって作成した。



○活動後の生徒の感想

- ・自分が「楽しかった」と思ったことだけを並べていては、読む人が面白くないと思いました。だから、楽しかったことを「楽しそう」と思ってもらえるために、写真のはりかたを工夫したり、文章を工夫したりしました。

- ・1人で作るのではなくて、みんなで作ることが楽しかったです。私たちの班は、「今度修学旅行に来る小学生」をターゲットにパンフレットを作成しました。1人ずつ作ったページをどのように組み合わせて一冊のパンフレットにするのか、みんなで悩みました。

(3) 平和に関する新聞記事を読もう

国語科「平和のとりでを築く」（光村図書6年）の単元で、新聞を取り扱った学習を行った。この単元は、広島原爆ドームが世界遺産に登録された経緯が書かれた「平和のとりでを築く」という説明文の読みとりと「平和について考えよう」という平和に関する意見文を書く活動で構成される。

「平和に関する意見文を書く」ということを単元の終末としたので、意見文を書くためには、まず平和について知らなければならない、という生徒からの気づきを引き出した。そこで、教師の説話や教科書の資料だけでなく、もっと多面的に多様な考えや思いがあることを知ってほしかったため、平和に関する新聞記事を選び考えを広げる活動を行った。

「戦没者追悼式」を扱った記事を選んだ生徒の感想を紹介する。

- ・私はこの記事の最後に書かれているふみさんの言葉「おかげさまで平凡な日々を送れて、感謝感激でいっぱいです。」を読んで、戦争を体験していない私がどんなに平和なのか分かりました。平和というのは戦争がなくて平凡な日々を送れることだと思います。

ただ、興味関心のある記事だけを選んで読むだけでは広がりがない。学習の中で、学習の手立てとなる材料として、テーマを意識した情報の選択をすることで、自分にはなかった新たな視点や興味関心の広がり生まれると考える。

3. 7年生のNIE実践

(1) 新聞スクラップ

7年生では、新聞スクラップを基本としてNIEに取り組んでいる。生徒自身が興味をもった新聞記事を切り取り、それに対して自身の感想・意見を書き込む活動を行った。

評価は、生徒の意見を次の四つの段階に分けている。

- ① 単純な感想（価値判断を伴わない）。
- ② 記事から課題を見出し、それに対して自分の意見を書く（価値判断を行う）。
- ③ 課題を自分の生活に結びつけ、普段の生活を見直そうとする（自らの規律）。
- ④ 記事を批判的に捉え、多面的・多角的に解決策を見出す（他者への働きかけ）。

7年生では、③の段階に移行することを一つの到達目標としているが、未だ①②の段階の生徒が半数近くと（10月時点）、目標にまでは至っていない。

だが、1回目のスクラップと比較すれば、全体的に高次の段階へ移行しつつある。この多くは、選択する新聞記事が「自分の意見が書きやすい」「課題を見つけやすい」ものに変化してきているためだと思われる。本年度の夏季休暇中に行われたオリンピックの記事でも、単なる感想に留まるのではなく、アスリートの取り組み方から普段の生活を考えるなど自分に引き付けて考える生徒が増えてきた。

また、自由に新聞記事を選ぶ新聞スクラップと同時に、教師側が記事を選び、その記事の見出しを考えると、いう取り組みも並行して行った。目的は、新聞の内容を端的に表す能力をつけさせるためである。同じ記事であっても生徒の着目した場面によって見出しが大きく異なり、非常に面白かった取り組みであった。

(2) いっしょに読もう新聞コンクール・税についての作文

本年度も、上記のコンクールに学年全体で作品を応募した。前者の取り組みでは、他者の意見（親・兄弟・友人）に自分の作品を読んでもらい、それを基に作品を見直すことや新たな視点に気づくことができた。後者の取り組みでは、「税」をその必要性から、様々な税の種類から取り組んだ生徒が多かった。恐らくは、今夏消費税増税について新聞やテレビなどのメディアで騒がれていたことで、このような方面から税についてアプローチしようと考えたためであると思われる。メディアの意見の受け売りをしている生徒がおり、自身の意見を述べられ

ず上記に挙げた②の段階を抜けられていない生徒も見受けられた。

前者は、一次審査通過が10名、うち1名が奨励賞、後者は1名が入賞した。

4. 中等部のN I E実践

5～7年生での総合的な学習の時間での授業。社会科の授業の中では事実認識・解決方法を考え発表する段階で参画が終わることが多い。そこで、生徒1人1人が社会に参画していくことに重きを置いた授業を行なった。ブロックごとに実際に地域のコミュニティの課題を取り上げ、その課題について生徒が主体的にコミュニティの課題を解決するためにさまざま調査や実践をした。その実践の内容を新聞形式にまとめた。その内容は以下の通りである。

①今年度の総合の実践の目標はなんだろう？

- ・コミュニティ（家庭・地域）をよりよくするための実践を考え、やってみよう。
- ・そして、その実践を、みんなに伝えて、みんなにもやってもらおう

②実践を考えるときのポイントをしっかり意識しよう。

まずは自分でやってみることが大切。

でも、その時に「とりあえずやってみました」ではもったいない。

下の3つのポイントをしっかり意識して、実践を考え、取り組もう。

<ポイント1>自分の所属する地域についてじっくり考えよう

自分の所属する地域・家庭について、できるだけたくさん考えてみよう。

その時に、下のA～Cのパターンにわけて考えてみよう。

A「自分の地域や家庭で、ここが問題だと思うし、かえていきたい」

（例）私の住んでいる地域は放置自転車がなくて、車いすの人が通りにくいところが多いので、
放置自転車を減らしていきたい。

B「自分の地域や家庭で、ここを解決できればもっとよくなる。」

（例）私の住んでいる地域には、掲示板があつていろいろな情報が貼られていて、
たくさんことがわかるが、貼りっぱなしで汚くなってきている。

C「自分の地域や家庭で、ここはいい！ぜひどんどんやっていきたい」

（例）私の家は、親が仕事で遅くなることが多いけれど、
かならずリビングのホワイトボードにメッセージを書くようにしている。

たくさん考えたら、その中で、特に「みんなにもやってほしい」ということを見つけ出そう。

また、実際にそれにたずさわる人にインタビューしたり、いっしょに活動するのもいいでしょう。

<ポイント2>「この実践を通してどういうコミュニティをつくりたいのか」を考えよう

実践のゴールを考えて、それを他の人に伝えられるようにしておこう。

そのゴールにむかっていける実践を考えよう。

<ポイント3>自分たちでできる方法を考え（p l a n）、実践してみよう（d o）

いくらすばらしいことを考えても、自分たちができなければ、意味がありません。

たとえば、放置自転車を自分たちの力で撤去することはできませんし、

駐輪場を自分たちでつくることもできません（駐輪場を作ってもらえるようお願いはできますが）

そこで、自分たちでできるだけ気軽に楽しんで取り組める方法を具体的に考えよう。

（聞いた人が「それだったら、やってみてもいいよ」と気軽に返事してくれる内容にしよう）

ここで大事にしたのはただの調べ学習で終わるのではなく、生徒がそれぞれに課題意識を持って、自ら決めたテーマに沿って、課題を解決するために活動したことを報告し、まとめ、問題的を行なうことである。

5. 8年生のNIE実践

(1) 新聞スクラップ

昨年度より取り組んでいる新聞スクラップコンクールを本年度も続けて取り組んでいる。昨年度は「課題を読み取り自分の意見を持つことができる」「課題を自分の生活に結び付け、自らの生活を見直そうとすることができる。」ということに到達目標にして、その上の目標として「記事を批判的にとらえ多面的な視点から解決策を見つけ出すことができる」を設定した。

今年度は高等部として、より高い目標を目指すために、感想や意見を持つだけでなく、記事から新たな疑問を持ち、それを探究することを促している。そのために記事の内容を深めるための資料を見つけて、それにもとづいた考察を行うことを促している。また、あえて時間をおいてから返却をして、自分の考えがどうだったかを、関連する記事や続報などの内容を踏まえて書かせることなども試みている。

(2) 第3回「いっしょに読もう！新聞コンクール」（日本新聞協会主催）

昨年度より取り組んでいる表記のコンクールについて、本年度は7年生・8年生の2学年で取り組んだ。7年生10名・8年生10名の計20名が京都府内審査を通過し、うち1名(8年生)が優秀賞・1名(7年生)が奨励賞に選ばれた。

このコンクールでは昨年同様に、他者の意見を踏まえてもう一度自分の意見を深めることを目指した。5～6月にかけて実施したため、オウム真理教信者の逮捕の記事など事件の記事を選ぶ生徒も多かったが、2012年4月に京都府内で連続して起きた交通事故をうけた交通安全を目指す動きなどの社会の発展を願う作品や、5月の日食や地域のニュースなど家族と経験したことについての作品が、普段の新聞スクラップよりも多かったのが印象的であった。その一因として、多くの生徒が父親や母親から意見の聞き取りをしたことがあげられる。実際、もっと明るいニュースを選ぼうというアドバイスを受けたという生徒もいた。記事の内容に対する意見だけでなくどういう記事に触れてほしいかという保護者の意見が見えたのが興味深かった。

(3) 「HAPPY NEWS 2012」日本新聞協会主催

本年度の新しい試みとして、表記のコンクールに応募をした。このコンクールに応募するにあたり、ねらいを二つ設定した。一つ目は、「心の温まる記事をみつけること」。先に述べたように、保護者は社会的な事象について考える力とともに、情操を養うことを期待している。そこで、今回はその点を一つ目のねらいに設定した。生徒たちは、普段とは違う視点で記事を選ばなければならず、記事を見つけるのに苦労する生徒も多くいた。しかし、新しい視点を持つことで、いつもは社会問題を課題として挙げていた生徒がプラスの印象の記事から感じることができたり、普段何気なく読み飛ばしている記事に関心を持つことができたりするなど、新しい発見をすることができたりもした。

二つ目のねらいとして「高等部としての中等部の手本となる作品を作る」ということを設定した。この取り組みは秋に8年生で行った後、冬休みに中等部学年（5～7年生）でも取り組むことを計画している。その説明の際に8年生の作品を紹介して、それを目標・手本にできればと考えている。また、8年生にとって取り組みの前に中等部の生徒にも読んでもらうということを示しておくことによって、よりよいものをつくらうとする意識、人に読んでもらうという相手意識を高めることを企図している。このねらいは、4－3－3制の小中一貫校であるからこそ可能なものであり、本校の特色を活かした形で学びの高めあいを目指していきたい。

本コンクールについては2013年4月上旬に結果が発表される予定である。

6. 9年生のNIE実践

(1) 新聞スクラップ

公民的分野では、現代社会の様々な問題について、政治的、経済的側面から検証し、社会の構成員である市民と

して意思決定や価値判断をしていく。最高学年である9年生では、現代社会の様々な問題に気づき、それについて自分なりの考えをもてるようにしたい。そのために、新聞を活用し、現代社会の諸問題を見つけ考えさせていく。

9年生では、社説やコラムをスクラップするように指導した。社説やコラムには、社会事象についての様々な意見が述べられている。そうした意見について、自分なりの考えをもてるようにしたい。

(2) 社会科授業での実践 単元名「国の政治のしくみ」

この単元では、国会、内閣のしくみを学習し、国民主権のもと、民主的な政治が行われていることを学習する。政治に関連して、社会でどのような問題が起こっているのかを考えさせるために、新聞で報じられている政治のニュースをできるだけ取り上げ、考えさせたい。そうすることで、マスメディアで報じられているニュースが理解でき、政治への関心を高めることができると考える。

取り上げたニュースには、以下のようなものがある。

学習項目	取り上げたニュース（キーワード）
民主主義と政治	「アメリカ大統領選挙」
政党と政治	「日本維新の会」「新党と第三極」
選挙のしくみと課題	「選挙改革法案」「0増5減案」
政治参加と世論	「討論型世論調査」「内閣支持率」
国会の働き	「ねじれ国会」「消費増税 衆院通過」「問責決議案」
行政のしくみと内閣	「衆議院解散」「閣僚辞任」「復興予算」
行政改革	「復興庁」「高速ツアーバスの事故」「格安航空会社」
裁判所のしくみと働き	「裁判員制度」「再審請求」「検察審査会」「えん罪事件」
三権の抑制と均衡	「一票の格差 参院も違憲状態」
わたしたちと地方自治	「地方分権」「道州制」「大阪都構想」
地方財政	「市町村合併」「特例公債法案」
住民参加の拡大	「原発の是非を問う住民投票」

Ⅳ. 成果と課題

実践を終えて、新聞に関するアンケート調査を行った。アンケート調査は、実践を始める前の4月と1年目の実践が終了した3月に同じ項目で実施し比較した。

質問項目1「新聞は読んでいますか」の問いに対して、「毎日読んでいる」「ときどき読んでいる」「ほとんど読んでいない」の3択で答えさせた。どの学年も「毎日読んでいる」と答えた生徒の割合が増え、「ほとんど読んでいない」と答えた生徒の割合が減っている。

また、質問項目2「一回で新聞をどのくらいの時間をかけて読んでいますか」の問いに対して、どの学年も読んでいる時間が増えた。

質問項目3「新聞のどこを読んでいますか」の問いに対して、どの学年も読む場所が増えている。特に、政治、経済、外国（外交）、社会の出来事、事件・事故のニュースを読む生徒の割合が増えており、この傾向はどの学年にも共通している。

質問項目4「『地域・地元のできごと』『自分が住んでいるところ以外の、日本国内のできごと』『外国のできごと』『スポーツニュース』のそれぞれについて、どんな情報源をおもに利用しますか」の問いに対して、新聞はテレビに次いで2番目に多く、地域・地元の出来事や国内の出来事に関しては、4月に比べると新聞からの情報が増えている。また、7年生からは、地域・地元の出来事、国内の出来事に加え、外国（外交）に関するニュースやスポーツのニュースで新聞の利用が増えており、新聞の活用が中学生から広がっていることが分かる。

また、6年生から、家族、友達、インターネットからの情報が増え、学年があがるにつれ、多様な方法で情報収集をしていることがわかる。

質問項目5「新聞からの情報で、どんなことに関心をもつようになりましたか」の問いに対して、事件・事故のニュースの割合が最も高く、新聞で大きく取り上げられる事件や事故のニュースの印象が強いことがわかる。生徒はそれを伝えることが新聞の役割だと認識しているといえる。

質問項目6「新聞を読むことでどんな力がついたと思いますか」の問いに対して、もっとも多かったのは、文章を読む力で、次いで調べて知る力となっている。

以上のアンケート結果から、5年生から9年生まで、新聞スクラップを継続的に行うことによって得られる学習効果として、以下のような点が挙げられる。

- ・年度当初と比較して、どの学年も新聞を読む頻度、読む時間が増えている。したがって、新聞を読む習慣が身に付き、新聞に興味を持つようになる。
 - ・新聞を読む場所が、テレビ欄や4コマ漫画、スポーツなど自分の関心がある記事から、社会の事件や事故、話題になっていること、社会問題など、幅広い分野の記事を読むようになり、社会に関心を持ち、新聞から豊富な知識を得ることができる。
 - ・学年があがるにつれてインターネットの利用が増え、多様な情報収集ができるようになる。新聞記事の内容をインターネットで調べるなど、新聞とともに、テレビやインターネット、書籍など、様々なメディアを組み合わせることで、メディアリテラシーの育成ができる。
 - ・新聞を読むことによる学習効果として生徒が実感することとしてもっとも多いのは文章を読みとる力が身に付いたということである。社会問題のような難しい内容の記事を読むことが増えるにつれ、難しい漢字や言葉を覚え、読解力が身に付く。
 - ・社会問題のような難しい内容の記事を読むことが増えるにつれ、思考力、判断力が身に付く。
 - ・学年があがるにつれ、家族や友達からの情報を重視する傾向が見られる。記事の内容について、教室で話し合ったり、家族で話し合ったりすることにより、コミュニケーション力が高まる。また、多様な考え方、価値観があることを知り、それを尊重できるようになる。
- また、新聞スクラップ以外のN I Eの実践により、以下のような成果があった。
- ・社会科や国語などで新聞記事を教材として取り上げることにより、新聞や新聞の記事に関心をもつようになり、記事の読み方も学べるようになる。そのことにより、新聞スクラップもさらに促進できる。
 - ・社会科や国語、総合的な学習などで新聞づくりを取り入れ、学習成果をわかりやすく伝えるようにすることで、思考力・判断力と結びついた表現力が育成できる。
 - ・新聞づくりや新聞スクラップなどの各種コンクールに参加し、何人かの生徒は入賞することができた。このような成果は自信となり、他の生徒の良い見本となる。また、保護者の理解も深められる。そのことにより、学校としてN I Eの実践に積極的に取り組んでいこうとする意識を高めることができる。
- 今後の課題として、以下のような点がある。
- ・実践者以外の教員にも実践が広がったとはいえない。実践方法や学習効果を全校にもっと広げていくことが必要である。
 - ・社会科や国語、総合的な学習などで実践したが、他教科、領域でも実践をし、実践の幅を広げていくことが必要である。
 - ・実践が教員の個人の力量やアイディアに頼る部分が多い。学年や教科、領域別のカリキュラムを作成する必要がある。

参考文献

小原友行(2006)「リテラシーを育成する社会科学学習開発の視点」『社会科リテラシーを育成するカリキュラム・学習指導・評価方法の開発』広島大学社会科学学習開発研究会、pp.1-2

日本N I E学会・日本新聞協会 共同研究プロジェクト研究報告書(2011)『情報読解力を育成するN I Eの教育的効果に関する実験・実証的研究』